

JCES ニュース

Japan Comparative Education Society, No. 41

目次

1. [第 57 回大会を終えて](#)
2. [第 31 回平塚賞の選考を終えて](#)
3. [第 31 回平塚賞を受賞して](#)
4. [第 31 回平塚賞審査委員会特別賞を受賞して](#)
5. [総会報告（第 57 回大会総会）](#)
6. [各種委員会からの報告とお知らせ](#)
7. [第 58 回大会開催について](#)
8. [お知らせ：若手ネットワーク委員会（Y-Net）の創設](#)

1. 第 57 回大会を終えて

第 57 回大会準備委員会委員長

藤井 穂高

日本比較教育学会の第 57 回大会は 2021 年 6 月 25 日（金）～27 日（日）の日程で筑波大学を会場校としてオンラインで開催されました。オンラインゆえ、つくばの地に会員の皆様をお迎えすることは叶いませんでしたが、自由研究発表 151 件（当日の発表辞退 3 件）、ラウンドテーブル 13 件のお申し込みを頂き、通常会員 263 名、学生会員 80 名、特別会員：4 名、臨時会員 100 名、計 447 名のご参加を得るなど、盛会裏に終えることができました。

シンポジウムでは「新時代の子どもの学びの在り方を国際的に考える一求められる資質能力と学習のアプローチをめぐって」をテーマとし、「VUCA」（不安定、不確実、複雑、曖昧）という言葉

に象徴される世界の中で、子どもたちの学びの在り方はどのように構想されうるのか議論されました。参加者も多く、予定時間を延長して活発な議論が展開されました。また、課題研究Ⅰでは、昨年、残念ながら開催に至らなかった中村学園大学・中村学園短期大学の企画を引き継いだ「保幼小接続の国際比較」が、課題研究Ⅱでは研究委員会による「学校に行けない子どもたち（OOSCY）と一アセアン諸国における就学阻害要因と教育協力ネットワークの展開―」が報告されました。いずれも今日的で重要な教育課題ですが、こちらも多くの会員にご参加いただき、大いに研究上の刺激が得られたことと思います。

今大会は、比較教育学会としても初めてのオンライン開催であり、昨年度大会が中止となったことから、まずは会員の研究発表の場を確実に確保することを第一に考え、準備を進めてまいりました。私どもも初めての試みであったため、懇親会は設けず、シンポジウムも公開にしないなど「守り」の大会運営となってしまいました。オンライン開催は旅費もかからないため、世界中の研究者との交流も可能であり、特に本学会にとってはメリットも大きいはずです。こうした「攻め」の運営を考える余裕がなかったことが反省として残ります。

こうした課題は残りましたが、本大会が盛会裏に終えることができたのは、ご参加・ご発表頂いた会員の皆様のおかげです。まことにありがとうございました。特にシンポジウムと課題研究のご報告と司会、自由研究の司会をお引き受け頂いた会員には厚く御礼申し上げます。また、オンライン開催の技術面でサポートしていただいたガリレオ社様、epoch-net 社様にも実に丁寧に対応していただき、円滑に運営することができました。

最後になりますが、杉村会長をはじめ学会事務局の先生方にはご丁寧かつ心のこもったご支援を頂き、安心して大会準備を進めることができました。改めて御礼申し上げます。

次年度大会の成功を祈念しつつ。

2. 第31回平塚賞の選考を終えて

平塚賞運営委員会 委員長
竹熊 尚夫

昨年度は新型コロナウイルス禍の影響もあり郵便物の遅配も考慮しましたが、2021年1月31日に応募を締め切り、5点の応募がありました。

審査委員会での慎重な審査の結果、田村徳子会員の『ブラジルの校長直接選挙 教職員と保護者と児童生徒みんなで校長を選ぶことの意味』（東信堂刊）を平塚賞受賞作品とし、田村会員に平塚賞を授与することを決定いたしました。委員会では、ブラジルの政治経済的背景や歴史的経緯、思想的背景を丹念に裏付ける地域研究を精力的に継続することによって多角的に収集された現地資料から、ブラジルの校長直接選挙による民主的理念の制度化を描き出すと共に校長の専門性への評価と選挙制度の存在意義との関連性を提起していること等が高く評価されました。

また併せて、審査委員会では濱谷佳奈会員の『現代ドイツの倫理・道德教育にみる多様性と連携 中

等教育の宗教科と倫理・哲学科との関係史』(風間書房刊)を特別賞作品として、濱谷会員に特別賞を授与することも決定いたしました。本作品も本賞に劣らず、長期のドイツ研究に基づいた重厚な労作であり、複数の研究手法を駆使することで「宗教」対「世俗」という対立図式を超えた、ドイツの倫理・道德教育の多様性と連携の展開を提示しており、比較の視座の開拓に大きく貢献していることが高く評価されました。

今回は各方面、各領域からの5点もの優れた作品を審査することとなりましたが、平塚賞本賞及び特別賞を授与することができ、学会としては大変喜ばしいことと思っています。

今年度も、引き続き、平塚賞の候補作品の選考を行います。自薦他薦での積極的な応募をお待ちしています。

3. 第31回平塚賞を受賞して

田村 徳子

この度は、拙著『ブラジルの校長直接選挙：教職員と保護者と児童生徒みんなで校長を選ぶことの意味』に対し、栄えある平塚賞を頂きましたこと、大変光栄に思っております。本当にありがとうございます。

拙著のテーマである校長直接選挙は、ブラジルの公立学校で1980年代より実践されている校長の選考方法であり、教職員、保護者、児童生徒が1人1票を投じて校長を選ぶというものです。このような説明をしますと、「そんな方法で校長を選んで大丈夫なのか」、「どんな人が校長に選ばれるのか」、「なんでそんな方法で校長を選んでいるのか」などといった疑問が、専門家でなくとも出てくるのではないのでしょうか。拙著では、まさにそうした校長直接選挙に対する素朴で率直な疑問を研究課題とし、ブラジルの歴史的、思想的文脈や実態を分析することで、ブラジルで校長直接選挙が実践されることの意味を考察しました。とはいえ、導き出せたのはごく一部の側面からの答えであり、読み終わられた読者には、さらなる疑問をわき起こすものであるということも認識しております。この度の平塚賞の受賞には、こうした残された疑問に対するさらなる研究遂行の激励の意味が込められているとも理解しております。

本学会の皆様には、大会や投稿論文などをおし、多くのご指導いただきました。途中、研究テーマを見失っていた私が校長直接選挙というテーマと出会い、本研究成果に結びつけられたのも、そのような皆様との交流があったからこそだと思っています。改めまして感謝申し上げます。今後は、平塚賞の名に恥じぬよう、ラテンアメリカ地域の教育研究の研鑽を重ね、本学会に貢献できるよう努めてまいります。今後とも、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



4. 第31回平塚賞審査委員会特別賞を受賞して

濱谷 佳奈

この度は、2020年2月に風間書房から出版いたしました『現代ドイツの倫理・道徳教育にみる多様性と連携ー中等教育の宗教科と倫理・哲学科との関係史ー』に対して第31回平塚賞特別賞という大変名誉ある賞を与えていただき、誠に光栄に存じます。研究を進める過程では、本比較教育学会の先生方、先輩方からご指導や励ましをいただけたことが大きな支えとなりました。今、改めて深い感謝の気持ちを捧げたいと存じます。先ほど、平塚賞運営委員会委員長 竹熊 尚夫先生より、身に余る評価のお言葉を賜りましたことにつきましても心より御礼を申し上げます。



拙著では、ドイツの中等教育段階において、1960年代のヴァチカン公会議以降、公立学校でありながら倫理・道徳教育が単純に「世俗化」されず、個々の宗派・宗教・世界観の尊重を貫いて特異なあり方が形成されてきた歩みを、多層的な分析を試みながら探ってゆきました。とりわけ、宗教科と倫理・哲学科のあり方を別次元の問題として捉えるのではなく、むしろ互いの関係性のなかで考察していく必要があると措定し、複数州の事例に基づく分析をもって歴史的展開に考察を加える、という方法をとりました。このドイツ中等教育の事例は、宗教と世俗との「関係性」の問題を如実かつ典型的に示しているといえ、拙著では、「世俗性」という教育学の規範が抱える問題を、倫理・道徳教育の分析から捉え直すことを試んでいます。こうして拙著では、「多様性」を尊重する教育のあり方に関する教育学研究の蓄積を加える、ということを目指しました。

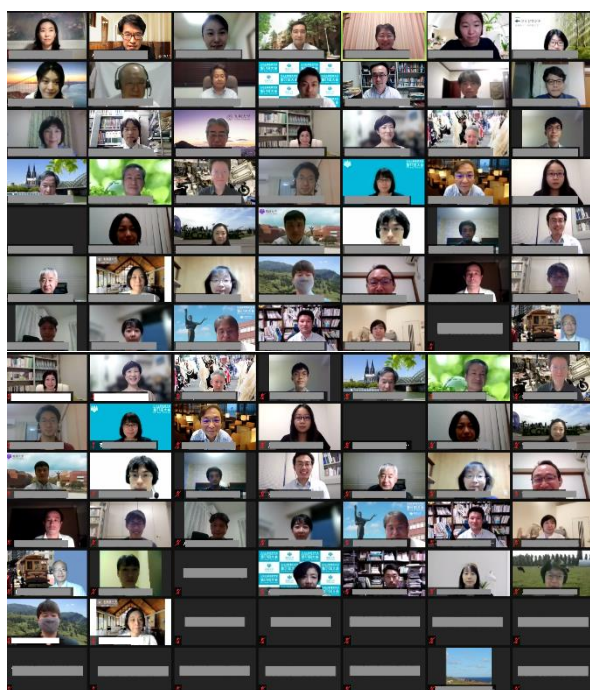
このようなテーマへの取り組みは拙著で完結したわけではなく、いくつかの書評でもご指摘を頂戴しましたとおり、課題も残されています。この度の受賞をきっかけに、拙著に対してさらなるご批判をいただきながら、いっそうの研鑽を積んでいければ、と願っております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

5. 総会報告（第57回大会総会）

2021年6月26日（土）に、第57回大会総会がオンラインにて開催されました。総会の議事次第は以下の通りです（2020年度決算報告及び2021年度予算案は別途送付いたします）。

1. 開会の辞

2. 会長挨拶
3. 大会校ご挨拶
4. 議長団選出
5. 2020 年度事業報告（事務局、各種委員会）
6. 平塚賞および特別賞授賞式と記念撮影
7. 2020 年度決算報告および監査報告
8. 2021 年度事業計画（事務局、各種委員会）
9. 若手交流委員会の設置について
10. 2021 年度予算案
11. 第 58 回大会について
12. 閉会の辞



6. 各種委員会からの報告とお知らせ

平塚賞運営委員会

委員長 竹熊 尚夫

運営委員会では、継続審議である、運営委員会と審査委員会の関係の整理と規定の検討、若手の定義と申請書式などについて審議しました。特に、若手を様々な社会環境の変化による研究者のキャリアパス、ライフコースの多様化に応じて 40 歳程度とし、審査において複数候補の評価が同程度である

場合には若手を優先するとの結論を得ました。

本年度も、引き続き、第 32 回の平塚賞の運営および候補作品の選考を行います。自薦他薦での積極的な応募をお待ちしています。下記の応募要領を確認いただき、奮ってご応募下さい。

記

1. 対象作品：

2021 年 1 月～12 月に公刊された比較教育学に関する著書・論文（分担執筆を含む。
ただし連名のものを除く）。

2. 応募要領：本学会ホームページ掲載の「平塚賞候補著書・論文推薦書」（Word または PDF ※12 月初旬に改訂予定）に必要事項を記入し、当該著書・論文 1 部とともに提出すること。

3. 締め切り：

2022 年 1 月 31 日（月）（必着）

4. 送付先：

〒 170-0002 東京都豊島区巣鴨 1-24-1
第 2 ユニオンビル 4F (株) ガリレオ気付
日本比較教育学会 平塚賞運営委員会
委員長 竹熊尚夫 宛

5. 問い合わせ先：g020jces-mng@ml.gakkai.ne.jp

紀要編集委員会

委員長（前期） 南部 広孝

紀要第 63 号がそろそろお手元に届く頃かと思います。特集は「幼児教育・保育の世界的動向」で 6 本の論考を収載しました。自由投稿論文は、19 本の投稿のうち 4 本の採択となりました。

現在、第 64 号の編集を始めています。自由投稿論文は 15 本あり、そのうち 2 本は形式審査で不受理とし、13 本について査読を進めています。これまでも繰り返し注意喚起されていますが、投稿にあたっては投稿要領をよく確認し、それを遵守していただきたく存じます。また、論文投稿チェックシートの不備も時折目につきますので、すべての項目が適切に記載されていることを確認のうえ提出してください。

少し先のことになりますが、第 65 号から森下稔常任理事（編集委員）が紀要編集委員長に、また花井渉会員が編集幹事に就任されます。それに伴い、原稿提出先も変更になります。第 65 号の論文投稿は 2022 年 1 月 20 日が締め切りとなっていますが、新しい原稿提出先は枠内の通りとなりますので、

投稿にあたっては提出先をお間違えなきようご注意ください。会員の皆様には引き続き精力的なご執筆と積極的な投稿をお願いいたく存じます。

【原稿提出・連絡先】紀要編集委員会事務局（第 65 号～67 号）

住所：〒135-8533 東京都江東区越中島 2-1-6

東京海洋大学 森下稔研究室気付

日本比較教育学会紀要編集委員会事務局 宛

Email： jces.kiyou@gmail.com

Tel： 03-5245-7528（森下稔研究室）

研究委員会

委員長 乾 美紀

研究委員会では、森下前委員長から企画していた『若手研究者必携 比較教育学のアカデミック・キャリア』（森下稔・鴨川明子・市川桂編著、東信堂）を今年 2 月に出版しました。ぜひ手に取ってご一読ください。昨年度は、新委員が一丸となってオンライン講座、公式研究発表会などにも取り組んできました。

第 57 回大会では、若手支援事業としてラウンドテーブル「比較教育学を学ぶ人のためのアカデミック・キャリアシリーズ III—比較教育学の実践・成果をどう発信するか」を実施しました。ラウンドテーブル後には、学生会員有志とともに「若手研究者交流会」を開催し、募集人数を上回る参加者とともに活発な交流がなされました。これを機に「若手交流委員会（仮称）」が設立することが大会で承認され、学会として組織的に活動を支援することが決まりました。また同大会では、小職を代表とする科研「アセアン諸国の OOSCY に対する国際教育支援ネットワークに関する研究」の成果を課題研究 II で報告しました。多くの会員の方々に貴重なコメントを頂いたことに、この場を借りて感謝申し上げます。

学会科研としては、森下前委員長を代表とする「境界研究の分析法を用いた国境・境界地域における基礎教育に関する国際比較研究」（基盤研究 A）が継続しています。OOSCY 科研は昨年度で終了したため、新たな科研を申請する予定です。

今年度は次の 2 つの計画があります。第一に、鴨川委員を代表として開催するオンライン・ワークショップ「東南アジアにおける女性の高学歴化を考える—「ワークライフキャリア形成」とジェンダー」（2021 年 8 月 7 日 9:30～）です。第二に、若手会員のための「科学研究費補助金の申請支援講座」（9 月 3 日 9:30～）を開催します。学会メーリングリストにより実施要領をお伝えしておりますので、奮ってご参加ください。オンラインでの開催となりますが、画面越しにお会いできることを心よりお待ちしております。

広報委員会

委員長 川口 純

広報委員会では9月19日（日）に「書籍紹介」の企画を開催します。会員の皆様がこれまでに刊行してきた書籍や刊行物をオンライン上でご紹介頂き、指定討論者のコメントを基に参加者の皆様と議論を深めることを目的に開催致します。これまで既に10本のお申込みがございました。多数の会員の皆様のご参加をお待ちしています。本企画は、一般の方もご参加頂けますので、是非、周囲の方々をお誘い合わせの上、ご参加下さいませ。当日のプログラム等は、追ってMLで広報致します。

広報委員会はこれまで学会のホームページやMLでの広報を中心に活動してきましたが、「書籍紹介」の企画を基に公式Facebookでの会員同士の相互交流の促進についても、鋭意、進めて参ります。引き続きどうぞよろしくお願い致します。

若手ネットワーク委員会 (Y-Net)

委員長 鴨川 明子

今期から「若手ネットワーク委員会 (Y-Net)」が創設されました。これまで研究委員会が担っていた若手支援企画は、学生会員を主体とする本委員会が引き継ぎます。

創設時に若手交流委員会は仮称でしたが、学生会員を中心にアイデアを練り、常任理事・理事・幹事の投票により、正式名称を「若手ネットワーク委員会 (Y-Net)」、通称を「Ambitious」と決定いたしました。ご投票のみならず、多くの貴重なご意見をお寄せくださりありがとうございます。

本委員会は、学生会員のエネルギーが原動力になっています。須藤玲会員（東京大学・院）をはじめとする学生会員が、ミーティングを重ねて、昨年度12月に公式研究発表会を事務局、研究委員会とともに開催しました。また、第57回大会では、「飲み物片手に集まろう」と呼びかけた若手研究者交流会に、30名を超える会員が集い、フィールドに行けない今だからこそその研究上の悩みや思いを熱心に語っていました。

本委員会創設に際し、杉村美紀会長から温かい励ましとともに、①理事会とのつながり、②継続性および持続性、③「学生会員の方と共に活動する」という3点を大事にしてはどうかというご助言をいただきました。

今後、これら3点に留意しつつ、本委員会委員の乾美紀研究委員長、牧貴愛幹事とともに、第2回公式研究発表会（2021年12月11日（土）9時～12時30分）や年次大会ラウンドテーブルを研究委員会と共同企画・運営します。また、本委員会の単独企画として、若手支援セミナー、学生会員の交流支援などを実施予定です。

ぜひとも、学生会員、若手研究者の皆さまから、積極的にアイデアをお寄せいただければ幸いです。詳しくは、ニューズレターの「事務局からのお知らせ」およびMLのご案内等をご覧ください。

世界比較教育学会 (WCCES)

WCCES 担当理事 杉村 美紀

1. 第 18 回 WCCES 大会の延期について

第 18 回 WCCES は、インド比較教育学会およびオセアニア比較教育学会の共同開催により 2022 年にインド・バンガロールでの開催を予定されていましたが、COVID-19 の影響を受け、2023 年に延期されることになりました。なお、2022 年の早い時期までにインドの状況が好転しない場合には、開催場所の変更も視野に入れるとともに、今後、コロナ禍への対応だけでなく、現地開催の場合の経費や交通費、ビザの問題などの解消を理由に、バーチャルと現地開催とを混ぜたハイブリッド方式などの導入も検討されています。

2. 第 4 回 WCCES シンポジウム開催 (2021 年 11 月 18~20 日) について

第 4 回 WCCES シンポジウムは 2021 年 11 月 18-20 日にヴァーチャル (ZOOM) で予定されています。WCCES シンポジウムは数年ごとに行われる世界大会とは別に、テーマを決めて企画されるもので、今回の大会テーマは“Values Education and Emotional Learning: Broader Implications for Holistic Curriculum & Schooling during and beyond the COVID-19 Pandemic”です。今回の大会は、WCCES のルモンバ会長及び事務局からのご依頼を受け、全国理事会のメール審議を経て日本比較教育学会も共催させていただくこととなりました。ご関心のある会員の皆様のご参加・御発表をお待ち申し上げます。なお、すでにメーリングリストでもご案内申し上げました通り、発表申し込み締め切りは 2021 年 9 月 30 日です。

4th WCCES Symposium

大会サイト <https://www.theworldcouncil.net/4th-wcces-symposium-2021.html>

申込サイト <https://easychair.org/account/signin?l=gTPuhLnTZQTozr6TMR8y45#>

3. WCCES 企画刊行物の準備について

WCCES では、現在 2 巻本の企画が進行中です。第 1 巻:世界の地域別比較教育学の動向
第 2 巻:WCCES 加盟学会の歴史と展開より成り、現在、45 加盟学会のうち 31 の学会が参加を表明しています。本学会からは、第 1 巻のアジア担当メンバーの一人に山田肖子会員が、また第 2 巻の編者のひとりに Maria Manzon 会員が、日本比較教育学会の項目については大塚豊会員、杉本均会員と杉村が共同で準備を進めています。

4. WCCES 研究委員会の活動について

現在、黒田一雄会員が WCCES 研究委員長を務めており、直近の第 58 回 WCCES 理事会におい

て、120 をこえる関連サイトをおさめた”WCCES Internet Resources on Comparative and International Education”を完成させた旨、黒田会員より報告がありました。

5. その他

WCCES ウェブサイトには、活動情報や Nexus Voice などの自由投稿ツール、近年開始された WCCES Book Series のご案内などが掲載されています。ご参照ください。

<https://www.theworldcouncil.net/>

教育関連学会連絡協議会

担当理事 中矢 礼美

教育関連学会協議会では、日本比較教育学会の「2021 年度大会日程」、「2020 年度教育関連学会大会報告」を『教育学研究』第 88 号 1 巻に掲載していただきました。

第 8 回教育関連学会連絡協議会総会では、運営委員会選挙と役員選挙を行い、活動報告と会計報告、活動方針について話し合われました。役員選挙結果、活動の詳細は、以下の URL をご覧ください。

教育関連学会連絡協議会ホームページ <http://ed-asso.jp/>

またシンポジウムなどの開催案内が届きましたらメーリングリストでお知らせいたします。

7. 第 58 回大会開催について

日本比較教育学会第 58 回大会のご案内

大会日程：2022 年 6 月 24 日（金）～26 日（日）

北海道・東北地区によるオンライン開催

大会準備委員会連絡先：

〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内 27-1

東北大学大学院教育学研究科

日本比較教育学会第 58 回大会準備委員会 劉靖

jces58ht@gmail.com

※新型コロナウイルス・パンデミックの収束が見通せないこと、オンライン・メディアの積極的な活用を図りたいことの両面から、オンライン開催とすることになりました。世界に開かれた、また、北海道・東北地区らしい内容を考えていきたいと思います。ぜひ、ご参加ください。

8. お知らせ：若手ネットワーク委員会（Y-Net）の創設

—第 2 回公式研究発表会の日程のお知らせおよび運営メンバー・企画の募集—

鴨川明子

今期から創設された若手ネットワーク委員会（Y-Net）から、お知らせとお願いが 2 点ございます。

1. 第 2 回公式研究発表会の日程

2021 年 12 月 11 日（土）9 時～12 時 30 分（予定）に、研究委員会との共催により、第 2 回公式研究発表会を開催する予定です。詳細は、追ってお知らせいたします。

2. メンバーと企画の募集

委員会の運営にたずさわりたい学生会員（大学院生）や若手研究者を募集いたします。また、本委員会へのご要望（企画案）などありましたら、ぜひ忌憚のないご意見を下記問い合わせまでお寄せください。なお、当面すべての企画は、オンラインでの開催を予定しております。

問い合わせ メール jces.ynet@gmail.com

学会への寄贈図書紹介

以下の図書を、著者・出版社より本学会にご寄贈いただきました。厚くお礼を申し上げます。なお、紀要および研究報告書の寄贈については、数量多数のため、掲載を割愛させていただきます。ご了承ください。

宋美蘭編著『韓国のオルタナティブスクール - 子どもの生き方を支える「多様な学びの保護へ」』明石書店、2021 年 www.amazon.co.jp/dp/475035158X

ロシア・ソビエト教育研究会 嶺井明子、岩崎正吾、澤野由紀子、タスタンベコワ、クアニシ 編著『現代ロシアの教育改革 - 伝統と改革の＜光＞を求めて』東信堂、2021 年 www.amazon.co.jp/dp/4798916781

坂口真康著『共生社会と教育 - 南アフリカ共和国の学校における取り組みが示す可能性』春風社、2021 年 www.amazon.co.jp/dp/4861107261

萱島信子著『大学の国際化と ODA 参加』玉川大学出版部、2019 年 www.amazon.co.jp/dp/4472405601

2019 年度地域コアリーダープログラム・イタリア派遣団編『イタリアで見つけた共生社会のヒント フル・インクルーシブの教育に基づく人々の暮らし』あけび書房、2021 年 www.amazon.co.jp/dp/4871541894

渡邊雅子『「論理的思考」の社会的構築 フランスの思考表現スタイルと言葉の教育』岩波出版、2021 年 www.amazon.co.jp/dp/4000026062

年会費納入のお願い

年会費納入状況をご確認いただき、未納分がある方は下記の口座へ早めのご納入をお願いいたします。紀要は年 2 回発行ですが、本学会では当該年度の会費納入を確認後、学会紀要『比較教育学研究』をお送りしています。3 年を超えて会費未納の方は会員資格を失います。

〔郵便振替口座〕00820-6-16161

日本比較教育学会事務局

【注意】

1. 所属機関名にて振込を行われる場合は、該当会員を特定することが難しいため、必ず事務局へご連絡をお願いします。

2. 「学生会員」として登録されている会員で、所属・身分等の変更により「学生」でなくなった方は、会員情報管理システムにて通常会員へ資格変更の上、通常会員としての年会費（10,000 円）をお支払いください

日本比較教育学会事務局

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨 1-24-1-4F

(株) ガリレオ 東京オフィス

学会業務情報化センター内

日本比較教育学会事務局

TEL: 03-5981-9824 FAX:03-5981-9852

E-mail: g020jces-mng@ml.gakkai.ne.jp